

中間試験や前期試験で、全科目100点を取ってしまう

— 定期試験は狭く深くに徹して満点を目指そう —

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：開倫塾は「勉強の方法」を指導してくれる塾だそうですね。とりあえず、身近に迫(せま)った1学期の中間試験や前期試験でよい点数を取るための「勉強の方法」を教えてください。

A：(林明夫：以下省略)最も大切なことは「志(こころざし)」を高く持つことです。定期試験であれば全科目とも100点満点を取ってしまうぞと「決意」することです。「志」が低く、80点取ればいいやと思っていたのでは、よくても80点しか取れません。

「志」が高ければよい点が取れ、低ければよい点が取れません。「志」次第で結果が決まります。人生というのはそのようなものであることも知ってください。

Q：わかりました。私も全科目で100点満点を取りたいので、全科目100点を取ってしまうぞと「志」を高く持つことに決めます。

A：素晴らしい決断ですね。決断こそが大事です。尊敬に値します。

Q：具体的には、どのようにしたらよいのですか。

A：「狭く深くに徹する」こと。これが、中間試験や前期試験などの定期試験で100点満点を取る秘訣です。

Q：「狭く深くに徹する」とは、どういうことですか。

A：学校の定期テストは、予め出題範囲が示されます。示されない場合でも、学校の先生の授業の進み具合をよく観察していれば、大体はどこまで出題されるか予想できます。

第1回目の定期試験は、4月から試験期日直前までに学校で習う内容がテスト範囲ですから、各科目とも数十ページしかありません。

この数十ページを、今日から試験問題が配付される直前まで徹底的に勉強すればよいだけです。

Q：徹底的に勉強するとは、どのようにすることですか。

A：①「教科書」に書いてあること、②「副教材」に書いてあること、③「学校の授業で取ったノート」に書いてあることを、「一語残らず、何もかもすべて覚えてしまうこと」です。

Q：テスト範囲の①「教科書」、②「副教材」、③「ノート」に書いてあることを、「一語残らず何もかもすべて覚えてしまうこと」ですって。そのようなことができるのですか。どのようにして覚えるのですか。

A：次の3つのステップを確実に踏めば、誰でも必ず一語残らずすべて覚えられます。

(1)まずは、テスト範囲のすべての事項を「大きな声で読む」こと。つまり「音読」することです。すべての科目を、大きな声で、はっきりと、ゆっくりと、噛みしめながら、何回も、何十回も、

何百回も読むことです。

何回も、何十回も、何百回も読んでいるうちに、だんだんと、そうか、そうだったのかと内容がよくわかってきたり、身にしみいるようになってきます。「音読」が一番大事です。

(2)次に、声に出してよく読み込んだ内容について、「書いて、書いて、書きまくる」こと。つまり「書き取り練習」をすることが大事です。テストでは、正確に書けない限り点数にはなりません。「楷書(かいしょ)」で「正確」に書く練習をしましょう。自分独自の「くずし字」や「マンガ字」では点数がつかないことも多いので、全科目とも「楷書」で書くこと。

(3)第3番目に、全科目とも、すべての問題について、問題を見た瞬間に正解がパッと答えられ、正確に書けるまで「練習」を繰り返すこと。

一度やった問題を、繰り返し繰り返し何十回もやり直す。その都度ノートや紙に問題と正解を正確に書く練習をすること。(何回もやり直すので、絶対に教科書や副教材に答えを書き込まないことがコツです。)

以上の(1)から(3)までを、この私の文章を読んで100点満点を取ってしまおうと「決意」したその日からスタートすれば、今までの成績には全く関係なく、どんな学校でも、誰でも、定期テストで100点満点を取ることができます。

Q：そうですか。最後に一言どうぞ。

A：この勉強の方法は、開倫塾の塾生の皆様が将来どのような学校で勉強するときでも使えるものです。

特に、新しい科目ばかりでなく、新しい仕事に取り組むときに絶大な威力を発揮します。開倫塾の塾生である間に確実に身に付けてくださいね。

例えば、新しい仕事を覚えるときに、先輩や上司からいろいろなことを教わりますね。仕事ができるかできないかは、教わったことをとりあえず一語残らずメモに取り、そのメモを完全に身に付けて、仕事に活かせるかどうかで決まります。

教えて頂いたことを、一語残らず正確にメモをし、それを何十回、何百回も「音読」し、「正確」に「楷書」で書けるまで書き取り練習をする。

このようなときはこのようにするとよいと、仕事の場面場面ごとの対応を覚え込む。「完全な仕事」をするためには、「メモ取り」「音読」「書き取り」「問題練習」が欠かせません。

このように、この「狭く深くに徹した勉強方法は、学校の勉強だけではなく、仕事をするときにも役に立ちますよ。

*この深く狭くに徹した勉強は、東京大学や慶應義塾大学など、最も難しいと言われる大学でよい成績を取るときにも、絶大な威力を発揮することはもちろんです。